平成21年９月１日
(2009)
第100号
毎月発行
編　集
公民館だより編集室
発　行
西東京市公民館

西東京市 公民館だより

田無公民館
南町5-6-11
TEL 461－1170

柳沢公民館
柳沢1-15-1
TEL 464－8211

芝久保公民館
芝久保町5-4-48
TEL 461－9825

ひばりが丘公民館
ひばりが丘2-3-4
TEL 424－3011

谷戸公民館
谷戸町1-17-2
TEL 421－3855

保谷駅前公民館
東町3-14-30
TEL 421－1125

西東京市公民館だよりは100号を迎えました

100号を発行するにあたって、「公民館だより」がどのように作られているか、読者のみなさんにご紹介します。

編集に携わっているメンバーの中から４人で座談会を催しました。以下はその抄録です。

★スタッフの座談会

編集会議は現在、市民スタッフ３人、公民館運営審議会委員から２人、各館担当職員６人の計11人で構成しています。

今回座談会に参加したのは

- **鹿島さん**…市民スタッフ４年目
- **藤田さん**…公運審委員として編集に携わった後、今年から市民スタッフに
- **須磨田さん**…５月から公運審委員として編集スタッフに
- **櫻井**…田無公民館の担当職員
- **司会**…平井（柳沢公民館）
- **記録**…渡邊（芝久保公民館）
- **撮影**…大谷（田無公民館）

8月の編集会議

櫻井「編集に関わって３年目になります。それまでは担当する講座の広報記事を書くのに頭を悩ませていました。今度は、紙面構成や取材の段取りを練ったりと、別の悩みがありますね。でも、市民の方と一緒に、対等に議論しながら、一つのものを作っていけるのがこの仕事の醍醐味です。今日はみなさんにも、これまで印象的だった企画や取材、また、これから『公民館だより』をこうしていきたい、といった意気込みをお話していただけたら、と思います」

須磨田「初めてサークル訪問の取材に参加して、経験がなかったので、準備が大変でした。どのように記事にまとめるのか、考えると難しいなと思いました。

取材を通して人と知り合う楽しみを体験できました」

鹿島「谷戸公民館の、ヒップホップダンスを踊る子どもたち（「Little Bird」）の取材が一番印象に残っています。街で踊っている若者たちへの見方も変わりました」

鹿島さん

須磨田「私は、以前は、１面と４面をよく読んでいました。どんな人たちが公民館に関わっているんだろうという関心からでしたね。『公民館だより』自体が、人と人を結びつける場となれば、と思います」

考えてみれば、公民館で展開されているサークル活動や、主催事業も、人と人が出会ってそこから何かが始まることを大きな目的としています。「公民館だより」もお知らせの掲載にとどまらず、ひとつの事業として取り組んでいこうと思います。

藤田「編集に関わるようになって、自分の勉強にもなっていますよ。自身のブログでも、写真の載せ方など、考えるようになりました」

須磨田「取材で感じたのは、サークルのみなさんが気持ちよく応じてくださっているな、ということ。これは『公民館だより』の歴史の積み重ねがあってのことだと思います」

鹿島「やはり読者が主人公であることが大事。一つひとつの記事が、地域に活かせる、貢献できること。このことが、地域で発行されるミニコミ紙の基本となるところでしょう」

市の合併以前から、保谷、田無両市で「公民館だより」は親しまれてきました。この歴史を大切にしつつ、新しい役割も考えていかなければならないと思います。

須磨田「100号を機に、振り返る時期でもあるのではないでしょうか。社会教育に関する問題を投げかけるだけでなく、地域のホッとした話題も掲載していきたいですね。だんだん世の中、効率ばかりが追い求められて、そういうゆとりがなくなっています」

藤田「読者の方からの反響を、紙面に載せていくのもいいですよね。また、魅力的な『公民館だより』にするためには、作る側と読む側との交流ー『読者のつどい』ーも必要なのではないでしょうか」

藤田さん

鹿島「直接市民の生の声を聞く、それが記事に反映されるようなコミュニケーションにもとづく紙面作りをしていきたい。今度は読者の座談会を記事にしたいですね」

というわけで、200号では、読者座談会を掲載できるよう頑張ってまいります。今後ともご愛読、ご指導よろしくお願いします。

★「公民館だより」ができるまで

原稿の締切は、発行前々月の25日で、とりまとめ公民館に送られます。

月末にレイアウトをして、印刷会社に入稿します。

原則毎月第１水曜日に編集会議を開きます。

編集会議では、当月号の反省、次月号の進行確認、そして以降の号の企画を立てます。企画には楽しみと苦しみがともないます。議論を尽くし、合意のもとに紙面を作ることを大切にしています。

校正は３校までです。校正を進めながら、取材や執筆を行い、次の締切に間に合わせます。

サークル訪問

日本舞踊「香郁会」

日本の伝統芸能である日本舞踊を楽しむサークル「香郁会」は、ひばりが丘公民館で活動しています。

会の歴史は23年と長く、旧保谷市の福祉会館で主催事業として行われたのが、きっかけだそうです。日本舞踊は、「藤娘」に代表される古典舞踊と歌謡曲（演歌）・大和楽・小唄・端唄などがあります。

最近では、演歌に振り付けた歌謡舞踊も盛んに行われ、「新舞踊」と言えば、これを指す場合が多くなりました。

新舞踊で使用する曲は、知られている曲が多い事もあって、発表会の時には、よく使われるそうです。

毎週木曜日10時から和室で、お稽古をしています。着物姿に着替えての練習は、粋で風情があり、思わず見入ってしまうほど…。

代表の中野さんは、踊りを始めて20年、会発足時からの１人です。

「１曲覚えるのがけっこう大変なのよ」と笑いながら話しかけてくれました。今練習しているのが、演歌「矢車の花」と三味線に合わせて踊る古典舞踊「もみじ橋」。ともに発表会で踊る演目だそうです。

目標は、何ですか？の問いかけに、「やはり発表会かしらね！」とニッコリ。

同じく会を支える20年目の後藤さんにお話を伺いました。

「この頃は、新しい踊りを覚えるのが大変になってきて、半分は苦しいですよ。でも舞踊は奥が深くて難しいと思う反面、そこがまた楽しいところなのかもしれません」

日本舞踊を始めて１年目という吉成さんにお話を伺いました。始められたきっかけは何ですか？の問いに、「私は、着物が大好きで、着物を着たかったのと三味線の音に引き寄せられた。という感じかしら…」

「はい！ではもう一度！」先生のやさしい声が響きます。

三人目になる指導者、嶺山松郁先生は、指導歴20年、会を支える大切な存在です。会では、１人で踊る楽しさだけではなく、グループで踊る群舞の楽しさを味わってもらいたいと。只今、会員募集中です！

連絡先　中野☎422・8538